

2015 リーダーズプロジェクトから

2015年度のリーダーズプロジェクトは、三重中、西陵中、小俣中の生徒計26人が参加し、年2回で行われました。

3年間の最終のリーダーズプロジェクトとして、今回の研修を通して大切にしてきたことは、「対話する（人との関わりを大切にする）」ということでした。「人との関わりを大切にする・・・」というのは、リーダーズプロジェクトの初年度に、当時の3種委員長から頂いた言葉です。



グループが協力して出す結論は、各人が考える方法の平均値を上回る。もっとも優れた個別のアイデアと比べても、はるかに優れた結果になることが多い。
・・・ジェイ・ホール（社会心理学者）

上記の言葉を紹介しながら、「各チームの中で、選手同士が、選手と監督・コーチが対話しながら、チームにとってより良いことは何かを見つけて欲しい。」と話をし、講義をスタートしました。

「対話する」ことの大切さ、人の思いを深く、広く聞くことの大切さ

活動の最初は、自己紹介から。その中で、他人の思いを十分に理解するために、「なぜ?」、「何が?」などの言葉で、相手の思いを深く質問していきました。また、「他には?」という質問で相手の思い広く理解していきました。

- 「僕はイニエスタが好きです。」…「どんなところが好きなんですか?」…「パスもシュートも一流だからです。」…「なぜ、一流だと思いますか?」…「周りが見れているし、ドリブルの技術もあるし、好守の切り替えも早いと思います。」
- 「僕はクリスチアーノ・ロナウドが好きです」…「なぜですか?」…「経済的に困っている人への寄付などを行っているからです。」…「他にはどうですか。」…「フェアプレーも大事にされていて、紳士的だと思うからです。」

「〇〇が好き」などの答えで話を終わらせない。「なぜ?」、「何が?」などの質問をすることで相手を深く理解する、相手が大切にしようと思っていることが見えてくることを伝えました。

10月31日には、今年度もJFAから濱崎芳己さんを招き、高円宮東海大会での「FCアベニーダソルU15 対FCフェルボール愛知」を観戦しながら研修を進めました。「試合で得点があったら、ゴールの直前に何が起こっていたのか、なぜ得点が生れたかを考えて欲しい。また、逆になぜ失点が生れたのかを考えて欲しい。」という指導のもと、選手たちは3、4人のグループで試合を分析しました。

- ゴールした選手のDFラインの裏への抜け出すタイミングが良かった。その前に、試合の開始からお互いに声を掛け合っていた。一つ一つのプレーが落ち着いている。パスが正確だった。コーナーキックの精度も高かった。奪われた後も、すぐにボールを奪い返しにいていた、...
- 失点があったのは、クリアミスがあったから。その前にも、一発でボールを奪いにいて抜かれていた。パスが浮いてしまっていた。DF同士のつなぎでもトラップミスがあった、...

この日の研修テーマの通り、「試合分析から練習方法の改善」を、選手が監督・コーチと共に実践できることを願いながら、進めていきました。

12月19日には、「審判の役割、フェアプレー精神について学ぶ」というテーマで研修を行いました。講師になっていただいた3種の審判長の狩俣さんから、「もし、サッカーにルールが無かったら?」、「あなたが考

えるフェアプレー精神とは？」などと参加者に問いかけながら、研修は進められました。

たくさんの人との出会いから学ぶ

午前中の研修では、DVDを見ながら、審判の役割や、ファウルを中心とした基本的なルールについて学びました。また、午後からは、AGF 決勝戦の「ISE YAMATO FC Junior Youth 対 FC Avenidasol U15」のマッチミーティングに参加したり（写真右上）、決勝戦のグラウンドでの用具やルールを確認したりしました。（写真右中）



この日、決勝戦の主審を務めていただいた永田さんからの「審判員は、グラウンドに到着したときから、また日常からルールを守るような行動、誰からも信用されるような行動をすることが大事・・・。」と熱く語ってもらったことが印象に残ります。（写真右下）



また、狩俣審判長からは、「自分よりも周りの人のことを考え行動することが、周りの人が気持ちよく活動することにつながり、それが周りの人だけでなく自分も気持ちよく活動することにつながっていく。」と話していただきました。



今回のリーダーズプロジェクトでは、大会のスポンサー企業にも視点をあて、AGF（味の素ゼネラルフーズ <http://www.agf.co.jp/>）さんが、「地域の住民の方々との信頼関係こそが活動の基本との考えに立ち、生産拠点のある地域を中心に、さまざまな取り組みやコミュニケーション活動を行っていること」・・・、その活動の一つがAGFカップであることも紹介させていただきました。

また、話し合うことの重要性を確かめるために、小グループで自分たちのチームの課題について考える機会も持ちました。その中には、「パスの精度が低い」など技術的な問題だけでなく、「チームワークが悪い」、「リーダー的存在がない」、「積極的に活動できる選手が少ない」など、精神面や社会性などの問題も上がりました。また、三重県の3種全体の問題として、「クラブチームと中体連チームが互いに高め合っていくためには？」、「三重県にJリーグのチームを作るためにできることは？」についても問いかけました。残念ながら今回は十分に話し合い、まとめる時間はありませんでしたが、これらは3種全体の課題として、今後も話し合っていく必要があると思っています。

今回の研修では、より良い課題解決のために留意することとして、以下の4点について、確認をしました。

- ・ チームの課題について、その課題となる具体的な現状をチーム内で話し合って共通理解すること
- ・ その課題から理想とする状態は何かを話し合うこと
- ・ その改善方法を、「誰が」、「いつ」、「どこで」、「どんな方法で行うのか」まで、決定すること
- ・ 考えられる障害があれば、その予防策や対応策についても話しておくこと

三重県サッカーの普及・発展を・・・

3年間を通して、リーダーズプロジェクトの目的は「三重県サッカーの普及・発展を担う地域を代表するリーダーを育成する。」でした。そして、U15において目指すリーダー像は「いつでも、どこでも（どんなチームでも、どんな指導者とでも）、自分やチームが向上するために、自分が何をすべきかを考え、仲間とともに行動できる選手」でした。3年間のリーダーズプロジェクトの活動については、三重県サッカー協会のHP (<http://www.fa-mie.jp/>) の3種の各種大会の中で、紹介させていただきます。

これからも、プロジェクトに参加してくれた選手だけでなく、三重県の3種委員会に関わる選手、指導者、すべての人々が、「人との関わりや対話を大切にしながら、自分やチームが向上するために考え、ともに行動し、成長を続けていく」ことを願い、3年間のリーダーズプロジェクトを終了します。